

# 定期作況報告

(第6号 平成12年10月20日現在)  
北海道立上川農業試験場

## 1. 気象概況

9月下旬：最高気温および最低気温は平年より各々0.3℃、1.3℃高かった。降水量は平年より30mm少なく、平年対比51%であった。降水日数は平年より1日少なかった。日照時間は平年より7.4時間少なく、平年対比83%であった。

10月上旬：最高気温および最低気温は平年より0.8℃、3.1℃高かった。降水量は平年より22mm多く、平年対比162%であった。降水日数は平年より3日多かった。日照時間は平年より14.7時間少なく、平年対比61%であった。

10月中旬：最高気温および最低気温は平年より各々1.9℃、1.0℃低かった。降水量は平年より8mm多く、平年対比122%であった。降水日数は平年より1日多かった。日照時間は平年より1.0時間少なく、平年対比97%であった。

9月下旬から10月中旬までの気象は表1のとおりである。

表1 気象

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	18.9	18.6	0.3	16.7	15.9	0.8	12.5	14.4	▲1.9	16.0	16.3	▲0.3
最低気温(℃)	9.8	8.5	1.3	8.8	5.7	3.1	3.0	4.0	▲1.0	7.2	6.1	1.1
平均気温(℃)	13.8	13.2	0.6	12.5	10.5	2.0	7.4	9.0	▲1.6	11.2	10.9	0.3
降水量(mm)	32	62	▲30	58	36	22	40	32	8	130	130	0
降水日数(日)	5	6	▲1	8	5	3	6	5	1	19	16	3
日照時間(h)	35.9	43.3	▲7.4	23.3	38.0	▲14.7	33.9	34.9	▲1.0	93.1	116.2	▲23.1

注1) 比布アメダス観測値。

2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。

3) ▲印は平年に比べて減を示す。

## 2. 作況

1) 水 稲 : 平年並

事 由 :

「きらら397」中苗および成苗についてみると以下の通りであった。

籾数：穂数・一穂籾数は「きらら397」中苗が平年より少なく成苗が平年より多かったため、㎡当たり籾数(㎡当たり穂数×一穂籾数)も中苗が平年より少なく成苗が平年より多かった。

稔実歩合・稔実籾数：稔実歩合は中苗・成苗ともに平年より高く、㎡当たり稔実籾数(㎡当たり籾数×稔実歩合)は中苗が平年より少なく成苗が平年より多かった。

登熟歩合・㎡当たり登熟籾数：登熟歩合は中苗が平年並で成苗は平年より低かった。㎡当たり登熟籾数は中苗が平年より少なく成苗がほぼ平年並であった。

精玄米千粒重：中苗・成苗ともほぼ平年並であった(平年対比102%)。

精玄米重：粒厚1.90mm以上の収量は「きらら397」の中苗および成苗が平年対比それぞれ97%、99%であった。

管内での作付け面積が最も多い「きらら397」成苗の収量がほぼ平年並であり、また、全品種・苗を込みにした収量が平年並(平年対比100%)であることから、本年の作況は平年並である。

表2 収量構成要素・決定要素および収量

品 種 苗	m <sup>2</sup> 当り穂数 (本)				一穂粒数 (粒)				m <sup>2</sup> 当り粒数(×1000粒)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	673	695	▲22	97	45.0	48.5	▲3.5	93	30.3	34.3	▲4.0	88
ゆきひかり 中苗	578	619	▲41	93	61.1	63.9	▲2.8	96	35.3	38.6	▲3.3	91
イシカリ 中苗	600	604	▲4	99	56.5	58.8	▲2.3	96	33.9	34.8	▲0.9	97
ゆきまる 中苗	685	644	41	106	50.1	54.0	▲3.9	93	34.3	34.6	▲0.3	99
きらら397 成苗	760	717	43	106	49.4	47.2	2.2	105	37.5	33.8	3.7	111

品 種 苗	稔実歩合 (%)				m <sup>2</sup> 当稔実粒数(×1000粒)				登熟歩合 (%)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	95.1	90.9	4.2	105	28.8	31.1	▲2.3	93	77.0	78.1	▲1.1	99
ゆきひかり 中苗	93.2	90.8	2.4	103	32.9	35.0	▲2.1	94	76.9	70.6	6.3	109
イシカリ 中苗	88.5	86.2	2.3	103	30.0	30.0	0	100	71.9	75.3	▲3.4	95
ゆきまる 中苗	90.5	92.6	▲2.1	98	31.0	32.1	▲1.1	97	75.2	79.5	▲4.3	95
きらら397 成苗	89.0	83.7	5.3	106	33.4	30.3	3.1	110	69.6	78.3	▲8.7	89

品 種 苗	m <sup>2</sup> 当登熟粒数(×1000粒)				精玄米千粒重 (g)				精玄米重(kg/10a)			
	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)	本年	平年	差	比(%)
きらら397 中苗	23.3	26.8	▲3.5	87	22.9	22.5	0.4	102	581	599	▲18	97
ゆきひかり 中苗	27.1	27.3	▲0.2	99	21.0	20.9	0.1	100	603	581	22	104
イシカリ 中苗	24.4	26.2	▲1.8	93	22.9	22.4	0.5	102	612	582	30	105
ゆきまる 中苗	25.8	27.5	▲1.7	94	21.7	21.6	0.1	100	567	587	▲20	97
きらら397 成苗	26.1	26.5	▲0.4	98	23.0	22.6	0.4	102	590	596	▲6	99

- 注1) 平年値は平成7～11年の5か年の平均値。  
 2) ▲印は平年に比べて減を示す。  
 3) 稔実歩合：触手で求めた。  
 4) 登熟歩合：比重1.06の塩水選で求めた。  
 5) 千粒重・精玄米重：粒厚1.90mm以上。水分15.0%に換算。

2) 秋播小麦 : やや不良

事由： 9月上旬から中旬にかけての降雨により、播種期は平年より11日遅れの9月21日となった。出芽は良好であった。播種が遅れたため、草丈、茎数、葉数はともに平年を大きく下回っている。越冬前の生育量の不足が心配される。

したがって、目下の作況はやや不良である。

表3 10月20日の秋播小麦の生育

品 種 名	播 種 期 (月日)			草 丈 (cm)			茎 数 (本/m <sup>2</sup> )		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	9.21	9.10	11	16.7	25.7	▲9.0	534	1183	▲649
	9.21	9.10	11	16.4	24.7	▲8.3	468	1292	▲824

品 種 名	葉 数 (枚)		
	本 年	平 年	比 較
タイセツコムギ ホクシン	3.1	5.3	▲2.2
	3.4	5.6	▲2.2

注1) 「タイセツコムギ」の平年値は、前7か年平均値。

「ホクシン」の平年値は、前6か年平均値。

2) 平成8年以降の播種量は255粒/m<sup>2</sup>。  
平成7年までの播種量は340粒/m<sup>2</sup>。

3) ▲は平年より減を示す。

3) とうもろこし : 不良

事由： 高温の影響で雌穂の登熟は進んだが、7月下旬の長雨と日照不足の影響で不稔個体割合が高かった。このため乾雌穂重は平年よりも軽く、特に不稔個体割合の高かった「キタユタカ」では平年を大きく下回った。この結果、TDN収量は平年比73%~89%と平年を大きく下回った。

したがって、作況は不良である。

表4 とうもろこしの収量

品 種 名	収 穫 時 熟 度			不 稔 個 体 割 合 (%)			乾 総 重 (kg/10a)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
キタユタカ P3732	黄後	黄中	-	65.0	7.8	57.2	1306	1685	▲379
	黄中	黄初	-	30.0	13.6	16.4	1663	1886	▲223

品 種 名	乾 雌 穂 重 (kg/10a)			総 体 の 乾 物 率 (%)			T D N 収 量 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	対 平 年 比 (%)
キタユタカ P3732	403	794	▲391	26.5	27.0	▲0.5	868	1194	▲326	73
	735	799	▲64	27.4	27.2	0.2	1165	1308	▲143	89

注1) 平年値は、前6か年の平均値。

2) 平成10年より栽植本数を7576本/10aに変更した。

3) ▲は平年より減を示す。

4) 大豆 : やや良

事由：成熟期は平年より2日～3日遅かった。主茎長は平年より6cm～7cm長く、主茎節数は平年よりやや多かった。分枝数は平年より多く、着莢数も平年より多かった。なお、全面的に倒伏したため、9月下旬以降収穫期にかけての長雨による品質の低下が懸念されるが、子実重は平年並以上が予想される。

したがって、目下の作況はやや良である。

表5 成熟期の大豆の生育

品 種 名	成 熟 期 (月日)			主 茎 長 (cm)			主 茎 節 数 (節)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	10. 7	10. 4	3	66	59	7	10.9	10.1	0.8
トヨコマチ	9.29	9.27	2	67	61	6	11.0	10.5	0.5

品 種 名	分 枝 数 (本/株)			着 莢 数 (個)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
トヨムスメ	7.9	6.5	1.4	90	81	9
トヨコマチ	8.1	6.0	2.1	97	76	21

注) 平年値は、前6か年の平均値。

5) 小 豆 : 不良

事由：茎疫病が多発し、1反復のみの参考成績としている。登熟期間の高温の影響で百粒重が平年より2g以上軽く、子実重の対平年比は76%～79%と平年を大きく下回った。屑豆率は平年より低かった。

したがって、作況は不良である。

表6 小豆の収量

品 種 名	子 実 重 (kg/10a)			
	本 年	平 年	比 較	対平年比(%)
サホロショウズ	243	324	▲ 77	76
エリモショウズ	250	328	▲ 68	79

品 種 名	100粒重 (g)			屑 豆 率 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
サホロショウズ	10.7	13.3	▲ 2.6	0.5	2.8	▲ 2.3
エリモショウズ	9.7	11.8	▲ 2.1	0.6	2.2	▲ 1.6

注1) 平年値は、前6か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

6) ばれいしょ : やや不良

事由: 「農林1号」は、8月下旬～9月下旬の平均気温が平年より高く経過したため、9月24日に枯凋期を迎えた。上いも重は平年比99%とほぼ平年並みであった。また、8月下旬～9月下旬の最低気温が高かったためでん粉の蓄積が劣り、でん粉価は平年より3.1ポイント低かった。このため、でん粉重は平年比75%と平年を大きく下回った。

「男爵いも」は、枯凋期が平年より16日早い8月21日で、上いも重は平年比120%であったが、平均1個重が軽く、60g/個以上の中以上いも重は平年比98%であった。ただし、高温条件での生育となったため、でん粉価は平年より低かった。

したがって、作況はやや不良である。

表7 収穫期のばれいしょの生育、収量

品 種 名	枯凋期 (月日)			上いも重(kg/10a)			中以上いも重(kg/10a)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
農林1号	9.24	達せず	—	5121	5154	▲ 33	4121	4756	▲635
男爵いも	8.21	9.6	△16	4555	3811	744	3333	3410	▲ 77

品 種 名	でん粉価 (%)			でん粉重 (Kg/10a)			収 量 平 年 比 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	上いも	中以上	でん粉
農林1号	11.5	14.6	▲3.1	540	723	▲183	99	87	75
男爵いも	12.5	14.1	▲1.6	—	—	—	120	98	—

注1) 平年値は、平成6年～平成10年の5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。▲は平年より減を示す。

3) 栽植株数は、平年値は3333株/10aであるが、本年は4444株/10aである。

7) てんさい : 平年並

事由: 前期に続き多雨・日照不足の影響で茎葉の増加は見られず、茎葉重は「モノホマレ」で平年よりやや少なく、「ストーク」では平年よりかなり少なかった。根重は、糖分分析が未調査のため本年は土砂付き重量で示した。

したがって、目下の作況は平年並である。

表8 収穫期のてんさいの生育、収量

品 種 名	茎 葉 重 (kg/10a)			根 重 (kg/10a)			根 中 糖 分 (%)		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
モノホマレ	4653	5092	▲ 439	(9553)	7779	(1774)	—	16.75	—
ストーク	3831	5118	▲1287	(8326)	7040	(1286)	—	18.40	—

品 種 名	糖 量 (kg/10a)			平 年 比		
	本 年	平 年	比 較	根 重	根中糖分	糖 量
モノホマレ	—	1294	—	(123)	—	—
ストーク	—	1293	—	(118)	—	—

注1) 「モノホマレ」の平年値は、前6か年平均値。「ストーク」の平年値は、前3か年平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 根重の本年は土砂付き重量を示す。